



学校だより よつわ

教育目標「進んで学び 生き生きと活動する子ども」

柏崎市立田尻小学校 No. 4 (R7. 8. 28)

田尻小ホームページ : <https://www.kenet.ed.jp/tajiri/tayori/>



子どもへの接し方を考える ～「むごい教育」の逸話から～

校長 ○○ ○○

「むごい教育」の逸話とは、徳川家康に関わるお話です。家康は、愛知県三河地方の小さな豪族の家に生まれました。周囲を有力戦国大名に挟まれており、攻められたらすぐに滅ぼされてしまうような状況でした。父である松平広忠は、跡継ぎである家康を、周囲の有力大名に人質として差し出します。家康を預かった、三河の戦国大名の今川義元は、家来に「家康には『むごい教育』をしろ」と命令しました。それを聞いた家来は、家康を日が昇る前に起こし、粗末な食べ物しか与えず、昼間は剣術、武術、馬術の練習を、夜は勉強を、毎日強制的に厳しく、くたくたになるまでやらせました。家康は夜に厠（トイレ）で腰を下ろすこともできないほどだったと言います。

しばらくしてから、今川義元は、家来がこうした教育を家康にしているということを聞き、激しく怒ります。驚いた家来は今川義元に「どうすべきだったのか」と尋ねました。義元は次のように答えました。「好きなだけご馳走を与えよ。寝たいと言ったらいくらでも寝かせてやれ。夏は涼しく、冬は暖かくしてやれ。学問が嫌だというなら一切させなくて構わない」。家来は、最初に指示された「むごい教育」とは正反対のように感じて首をかしげます。すると今川義元は続けてこう言いました。「そのようにすれば、たいていの人間はダメになるからだ」

このお話をももちろん現代にそのまま当てはめることはできません。「むごい」とは「残酷である、無慈悲である」という意味ですが、この逸話は、苦しいことや辛いことを乗り越える経験をさせず、甘やかし、我慢する経験を奪うことは、結果として子どもをダメにすることを伝えています。現代社会は、生活が豊かになり、物が溢れ、欲しいものはすぐに手に入るようになりました。「むごい教育」の条件が整っています。現代と戦国時代を同じように考えることはできませんが、一人一人の個性、成長の過程段階、様子等を捉え、「むごい教育」にならないようにしていきたいものです。

夏休みに入り、すぐに保護者の皆様から学校においでいただき、個別懇談会を設けました。暑い中での懇談となりました。それぞれのご家庭の状況や子育ての考え方にも違いがあります。当然のことです。だからこそ、学校としての考えをお伝えする場を設ける必要があります。田尻小学校では、子ども一人一人を大切にすることを進めるよう努めています。「子どもを大切にする」ことは、何でも手助けをしたり、困難を避けさせたりすることではないということを、この逸話からも感じています。学校は集団で学ぶ場ですので、自身の思い通りにならないことも多くあり、多様な経験を積むことができる場です。時には困ることや失敗すること、他者との行き違いやトラブルもあります。自分の非を認め、謝らなくてはならない場面もあります。学校が子どもにこれらの経験を積ませ、試行錯誤し、自分の力で乗り越えていける場であるためには、教職員や保護者等の大人が、子どもの成長を信じて見守る姿勢も大切になると考えます。

夏休みが明け、元気に登校してくる子どもたちの様子をみると、充実した夏休みを過ごしてきたことが伺えます。秋は音楽会、よつわっ子フェスティバルと、子どもたち同士でつくり上げていく大きな行事が待っています。どんなドラマが見られるか楽しみです。そして、困難を乗り越え、多くの笑顔が見られるように見守り、支えていくつもりです。